

# しば子先生の 芝生教室

## 第143回 養分吸収



先生：やっと桜が咲いたけど、今年も変なお天気が続くわね・・・

生徒：二月に夏日だったり・・・また雪が降ったり・・・

先生：私が学生だった頃とは違って天気の変化が極端で激しくなって来たわ・・・

生徒：本当にそうですね・・・年々ひどくなっている気がします・・・

先生：5年後10年後はどうなっているのか心配だわ・・・

生徒：芝生の管理もますます厳しくなってきますね・・・

先生：そうですね・・・昔のように「勤」に頼ったような管理ではひどい目に遭うのは必至だわね・・・でもなかなか科学的に管理するための理解は進まないわ・・・

生徒：いろいろ皆さん勘違いしている事が多いんですね・・・

先生：正直言って「博士」とかの肩書きがある、見た目が専門家の人でも時々勘違いしている事があるからやっかいね・・・

生徒：正しい知識が広がらないのは困ったことですね・・・

先生：ほんとにそうだわ・・・でも一つだけ救いがあるわ・・・芝生は嘘をつかない・・・のよ・・・

生徒：えっ・・・芝生は嘘をつかないってどういうことですか？

先生：芝生はちゃんと管理しないと枯れてしまうと言うことよ・・・人間は勘違いや嘘をつくかもしれないけど・・・それが正しい管理方法でなければ芝生は悪くなり最悪枯れてしまうということよ・・・逆にちゃんと管理すれば素晴らしく美しい芝になるわ！・・・私がアドバイスしている芝生は異常気象でも一年中とてもきれいよ！

生徒：なるほど、芝生の状態が「正しい管理が正しくない管理かの証し」になるということですね！！

先生：そのとおり・・・営業マンの口車に乗って大事な予算をたくさん使っても、芝生が良い状態にならないということは何かの間違っているということなのよ・・・それに気がつかないとね・・・

生徒：キーパーさんのお仕事も

大変ですね・・・

先生：そうね・・・誰が正しいのかは自分で本を読まないといけないわ・・・

生徒：予算も厳しい中、仕事で疲れて勉強するのは大変ですね・・・

先生：ほんとにそうね・・・たとえばよくある肥料の事での勘違い、「肥料を撒いたら芝生にそのまま吸収される」と思っている間違い、実際は肥料の成分はそのままだけで芝生の根には吸収されないということよ・・・

生徒：そうですね・・・土壌で分解されてイオンの形にならないと吸収されませんね・・・

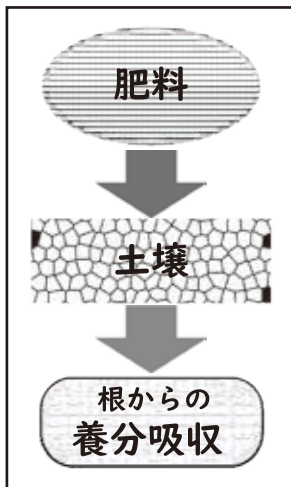
先生：まず肥料、どういう肥料成分がどのくらい入っている肥料なのか、いつ何グラム撒くのか・・・その成分が土壌でどのように分解されてイオンになるのか・・・またそれに必要な時間など・・・そして土壌・・・土壌の化学性・・・CEC やpH・・・土壌温度、有機物量・・・土壌微生物の活動量など・・・土壌分析結果の情報も必須だわ・・・そして芝生自身・・・どんな種類の芝生なのか、窒素の要求量はどのくらいなのか・・・芝生自体の健全度はどのくらいなのか・・・芝生の根の状態がどうなっているのか・・・などなど様々な条件が芝生の養分吸収に影響するわ・・・そして肥料成分が流亡したり気体になってロスも起こるし逆に固定されて効果が出ないことも・・・

生徒：複雑すぎて気が遠くなりそうです・・・

先生：だからこそなるべく安定して肥料の効果が出るように様々な緩効性の技術があるのよ・・・速効性の窒素肥料は大体その50%ぐらいしか植物には吸収されないというのが常識・・・肥料成分でマイナスイオンになる成分は土壌の中の水に溶けているので雨が降り続けばどんどん流されて流亡するわ・・・

生徒：それも計算しないと養分不足になりますね・・・

先生：昭和時代のキーパーさんは「安い化成でも適当に撒いたらいいんだよ」なんてよく言ってたけど・・・安い化成も高くなってしまったし・・・今の様な天気では速効性の肥料の効果もどんどん短くなるし・・・撒く手間も大変だし・・・それに雨続きでは撒けないし・・・土壌も古くなって化学性に問題も出るし・・・



しば子先生への質問や励ましのメールはこちらへ・・・  
shibako@hugh-enterprise.co.jp